

アメリカオオアカイカ 東部太平洋

Jumbo Flying Squid, *Dosidicus gigas*

管理・関係機関

ペルー政府

最近一年間の動き

FAO 漁獲統計では、2004 年の本資源の漁獲量は、中国・チリの漁獲がそれぞれ 20 万トン前後に急増したこともあり、82 万トンと前年に比べ倍増し、いか・たこ類の中で世界一となった。

生物学的特性

- 寿命: 1 歳 (中型)
- 成熟開始年齢: 約 4~5 ヶ月 (中型)
- 産卵期・産卵場: 周年、カリフォルニア~チリ沖の湧昇域
- 索餌期・索餌場: 周年、カリフォルニア~チリ沖の湧昇域
- 食性: プランクトン、魚類、いか類 (共食い)
- 捕食者: キハダ、いるか類、マッコウクジラ等

利用・用途

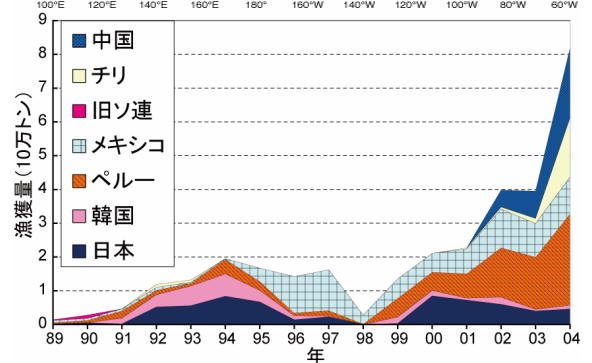
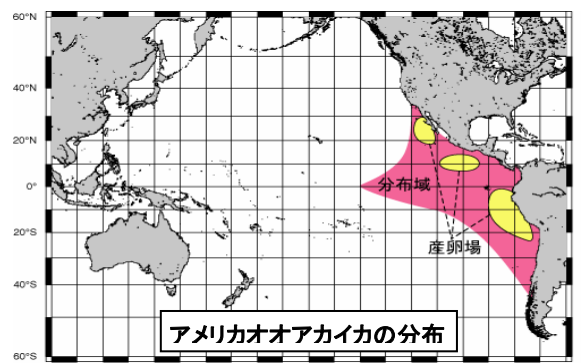
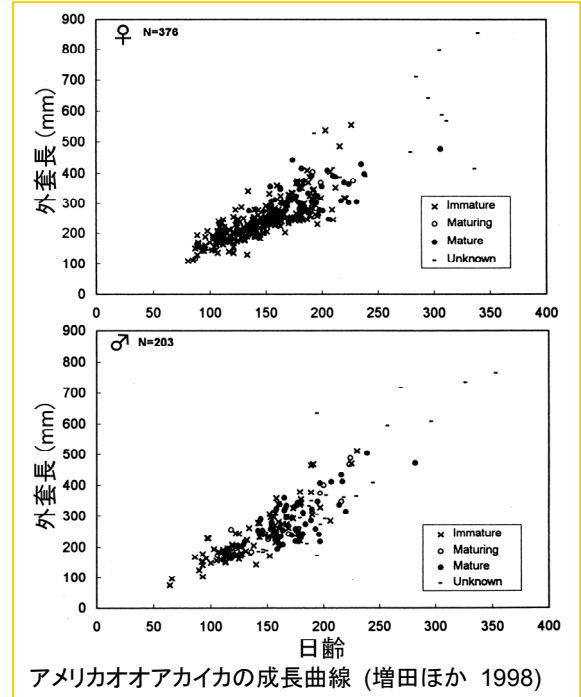
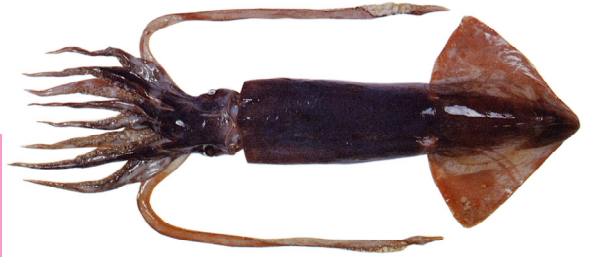
冷凍ロールイカ、総菜

漁業の特徴

我が国は、1989/1990 漁期頃からメキシコ 200 海里内で釣り操業を開始した。その後、ペルー 200 海里内で高密度群が発見され、1990/1991 漁期から漁船 40 隻余りが同海域に出漁し、各漁期 4~8 万トンを漁獲した。しかし、1996/1997 漁期からペルー海域は不漁となり、コスタリカ沖で新漁場が発見された。1999/2000 漁期にはペルー海域及びコスタリカ沖で操業が再開された。2002/2003 漁期以降、我が国は前者の海域でのみ操業している。

漁獲の動向

漁獲量は 1992 年に約 11 万トンに急増し、1998 年を除いて 2003 年までは 14~40 万トンを維持し、2004 年には 80 万トンに急増し、いか・たこ類で世界一になった。海域別に見ると、ペルー海域 (チリ沖も含む) では 2002~2005 年に我が国、韓国、中国、チリ及びペルーが計 30~70 万トンを漁獲し、カリフォルニア湾では 1996/1997 年および 2002~2004 年にメキシコが約 11 万トンを漁獲した。2001 年は我が国がペルー海域、コスタリカ沖で約 14 万トンを漁獲した。その後は、2~5 万トン程度となっている。



資源状態

ペルー海域では 1991/1992 ~ 1994/1995 漁期は好漁であったが、1995/1996 漁期から漁獲量・CPUE が減少した。前者の漁期は、エルニーニョ傾向で、後者の漁期はラニーニャ傾向であった。さらに、1994/1995 漁期には総漁獲量が 19 万トンに達したことから、1995/1996 漁期の不漁の原因として、海況(ラニーニャ現象)と乱獲の両方の可能性が考えられた。1997/1998 漁期には大規模エルニーニョが発生したが、好漁にはならず、引き続き不漁であった。2000/2001 漁期以降は好漁に転じた。なお、ペルー政府は 2003 年の資源量を 90 万トンと非常に大きく見積もったがその根拠は公表されていない。

管理方策

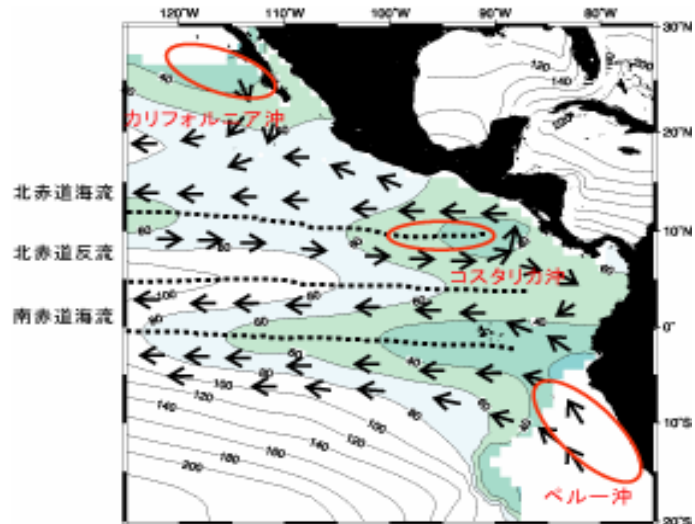
ペルー政府による Schaefer モデル解析によると、2004 年及び 2005 年の TAC はそれぞれ 20 万トン及び 25 万トンである。2006 年の 1~6 月の TAC は 15 万トンとなっている。本種は漁況のみならず、商品価値の高い中型の出現が不安定なため、漁況及びサイズ組成の予測手法の確立が重要な課題である。

資源評価まとめ

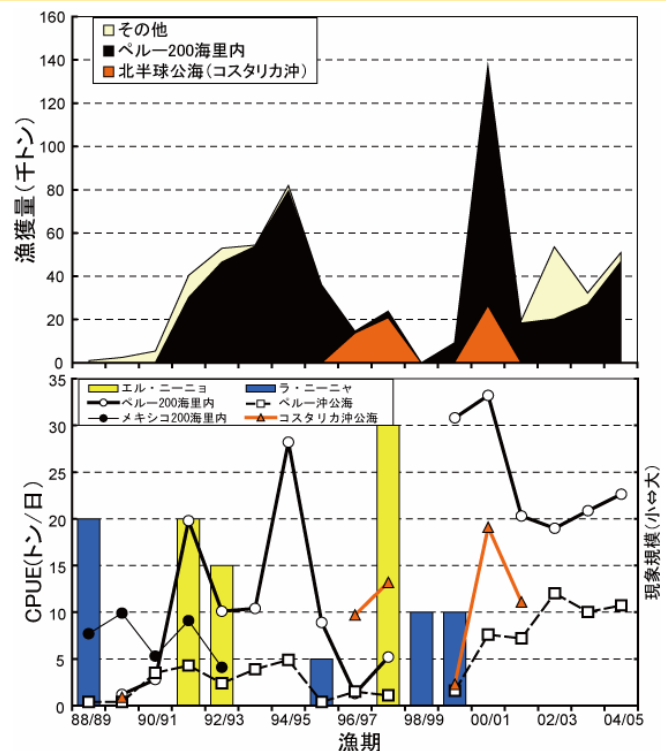
- Schaefer モデルによる MSY に基づいて資源評価
- 資源の年変動が大きく、最近年は増大傾向

資源管理方策まとめ

- 2005 年のペルー EEZ 内における TAC は 25 万トン



漁場分布(赤丸囲み)と 7~12 月の表面流と 20°C 等温線の深度。湧昇域付近に漁場が形成される



わが国のアメリカオオアカイカ漁獲量(上)と CPUE(下)の変遷とエルニーニョ・ラニーニャ現象の相対的規模

アメリカオオアカイカ(東部太平洋)の資源の現況(要約表)

資源水準	高位
資源動向	横ばい
世界の漁獲量 (最近5年)	18.5~79.9 万トン 平均:39.8 万トン
我が国の漁獲量 (最近5年)	3.7~14.0 万トン 平均:6.8 万トン